山梨県立考古博物館

協力会だより 第40号

発　行　山梨県立考古博物館協力会　〒400-1508　山梨県甲府市下曽根町 923　電話(055)266-3881
発行日　平成 28 年 5 月 31 日発行　協力会ホームページ　http://www.y-kyouryokukai.jp/

平成２７年度の活動を振り返る

◆◆ 活　動 ◆◆

- 平成２７年度考古博物館協力員委嘱式・協力会総会
  ボランティアガイド交付式　（４月１１日）
- ミュージアムショップ　（５月～３月）
- ボランティアガイド　（通年）
- 第２４回風土記の丘こどもまつり（５月５・６日）
- 学校勾玉づくり体験補助　（５月～９月）
- 竪穴住居でおはなし会・戦争体験おはなし会
  （７月・８月・11 月）
- 収穫祭・県民の日　（１１月）
- 古代のもちつき　（１月３日）
- 考古博物館春まつり（３月６日）
- 第３３回特別展　（１０月６日～１１月２３日）
- 特別展準備作業　（９月２９・３０日）
- 常設展復旧作業　（１１月２７・２８日）

◆◆ 研　修 ◆◆

- 勾玉作り等体験補助研修　（４月１６日）
- ショップ研修　（６月１３・１６日）
- ボランティアガイド研修
  （前期６月１３日・１６日）
  （後期８月８日・１１日）
  （実習３月 12 日・１５日）
- 春季企画展勉強会　（５月１３日・１６日）
- 夏季企画展勉強会　（８月８日・１１日）
- 特別展勉強会　（１０月１０日・１３日）
- 県内研修　（２月２６日）
- 県外研修　（３月２７日）

平成２７年度 山梨県立考古博物館協力員委嘱式・総会 ボランティアガイド証交付式

４月１１日、風土記の丘研修センターにて平成２７年度山梨県立考古博物館協力員委嘱式・総会を開催しました。新たに５名の方が加わり、協力員は総勢８３名となりました。また総会では新役員が承認され、長澤宏昌会長のもと、新たな体勢で協力会の活動がスタートしました。引き続き行われたボランティアガイド証交付式では１５名の方にガイド証が渡されました。３名の方がガイドマスターとなり、今後の活躍が期待されます。その後、長澤新会長による記念講演が行われ、考古博物館の展示の中心である縄文土器について、その背景や文様の特徴、そこに込められた縄文人たちの願いなど興味深いお話を聴くことができました。

多くの人に来館していただき、学び、楽しんでいただけるような博物館をめざし、力を合わせて活動していきたいと思います。各イベントや体験活動、勉強会等において、協力員一人ひとりがそれぞれの個性や特技を活かせる協力会活動を展開していきます。

写真上：30 年表彰の原田さんに感謝状！

写真左：総会の様子。多くの協力員が出席しました。

写真右：長澤新会長の記念講演の様子。

考古博物館第 33 回 特別展 「縄文の美～世界に誇る JOMON 芸術～」

10 月６日（火）～ 11 月 23 日（月）の 49 日間、第 33 回の特別展が開催されました。縄文の造形美に焦点を当てたこの特別展には、縄文ファンはもちろん、県内外から多くの方にご来館いただき、来館者数は 5,900 名を超えました。中には海外からのお客様や小さなこどもたちの姿もありました。縄文文化のすばらしさ、美しさを幅広く知ってもらう機会となりました。

▲レセプションも盛大に !!

期間中、協力会では展示室の監視、ミュージアムショップでの販売、チケットのもぎりなど、ボランティアスタッフとして当番制で毎日活動しました。また期間中に開催された収穫祭や県民の日などのイベントスタッフ、展示の入れ替え作業、ボランティアガイドなど様々な形で、それぞれが力を発揮しました。

その甲斐あって、無事会期を終え、多くの方に縄文の美を楽しんでいただくことができました。年に一度の特別展を盛り上げるべく、今後も協力していきたいと思います。

▲ガイドにも熱が入ります !!

▲小さな子どもたちも。

平成２７年度県内研修

研修地：安道寺遺跡・殿林遺跡・重郎原遺跡（甲州市）

開催日：平成２８年２月２６日（金）

今回の県内研修は今年度出土資料が県有形文化財に指定された安道寺遺跡、その周辺にある殿林遺跡、重郎原遺跡を見学しました。17 名の会員が参加し、協力員であり、甲州市文化財指導官の小野正文さんを講師に、暖かな陽気の中、３つの遺跡を巡りました。

山々に囲まれ、自然の恵みが豊かなこの地で、縄文時代の人々がどのように暮らしていたのだろうと思いを巡らせ、地図を見ただけではとらえきらない地形や自然の特徴を学ぶことができました。また高台から眺めた甲府盆地や南アルプスの山々など風景がとても美しく、清々しい気持ちになりました。改めて現地へ足を運び、自分の目で確かめることの大切さを実感した県内研修でした。

内藤敏夫さん

甲州市内に降った前日の雪もなくなり、風のない暖かな研修日でした。

甲州市役所の集合場所から、北東方向を見ると「天空の丘」というか、周囲と比べて一段高い台地上に集落が見えます。甲州市中萩原から上萩原へと続いています。この台地上から安道寺、殿林、重郎原遺跡は発掘されました。海抜は５００mから５８０m、北東の山々から佐野川、文殊川、重川が甲府盆地に流れ込んでいます。安道寺遺跡から見る甲府盆地、南アルプスの山々は心が澄む感じでした。それぞれの遺跡から発掘された土器の形状と合わせて、縄文時代の人々の生活が感じられたところです。

▲安道寺遺跡にて。
講師の小野先生の説明を聴きます。

眞田義夫さん

最初は乗り合わせで安道寺遺跡を見学。現地はぶどう畑、桃畑であったが畑の中に入らせていただき、土器のかけらがあった。ここに水煙文土器があったと思うと感無量であった。

土器のかけらは現地に置き、次は殿林遺跡 に行く。講師の小野正文先生の自宅裏が殿林 遺跡で、見学の前に先生の奥様にお茶をごち そうになり、漬け物・草餅の味が格別だった。 殿林遺跡の現地は標高約 580m 位にあり、文殊川に面した景色の良いところだった。

重郎原遺跡は駐車場がないため、車窓からみて通り過ぎ、十二時頃には甲州市役所に戻り解散。良き研修になりました。

←写真左上：畑の中を歩いてみます。
写真左下：桃畑の中を移動。議論？は尽きません。

N.T さん

考古博物館で美しい土器を眺めながら、どんなところから出てきたのだろうと、いつも気になっていた。安道寺遺跡も殿林遺跡も、いずれも奥深い山村の畑の中で何の目印もなく、個人で来ても何も分からない。こういう研修だからこそ来られた場所だ。現場で、発掘にも携わられた小野先生をはじめ、経験豊富な方々のお話を伺いながら、周りの山々、谷、川、山林などを眺めていると、「縄文の文化はこういうところで花を咲かせていたんだ」とわかった様な気がした。

小野先生のご自宅には大勢でお邪魔し、お菓子や手作りの沢庵をごちそうになった。美味しかった。小野先生ご夫妻には大変お世話になり御礼申上げたい。有意義な研修だった。

みんなで一服！▶
おいしいお茶とお漬け物、お菓子をいただきました。

◀ 殿林遺跡発掘時のお話を聞きました。

飯田敬さん

縄文時代中期の代表的な土器が出土した安道寺、殿林遺跡を訪れるというので早々に申し込む。講師は幼少の頃からこの地が自分の庭であったと自負される恵林寺宝物館長の小野氏である。あそこから、この辺から発掘されたと指をさされるが、私はただうなずくのみである。何となく言えるのは、現在も果樹栽培が盛んに営まれている風光明媚なこの地で、当時の縄文人もかなり豊かに暮らしていたのは間違いなかっただろう。研修の後、釈迦堂博物館へ行き、昨年発掘されたばかりの出産土偶を見る。小さなものでおそらく個人で来てみても見逃していたであろう。天気も良く、充実した日になりました。

山縣仁美さん

考古博物館のスターというべき深鉢形土器や水煙文土器が出土した殿林遺跡や安道寺遺跡はどんなところなのだろうと常々思っていましたので、今回研修で案内していただけるということでわくわくして参加しました。到着してみると、集落近くの果樹園の一角で、何の目印もないことに驚きました。しかし、何千年も前の縄文人もここに立っていたのかと思うと感慨深いものがありました。また地図だけでは実感しにくい扇状地の地形も理解することができました。出土地を見学することで、今後ますます展示品に愛着がわきます。お天気にもめぐまれ、よい学びの機会になりました。

現地に来ると、地形の特徴なども実感します。
「あの美しい土器はこの環境のなかで、つくられたんだなあ」

平成２７年度県外研修

研修地：称名寺・金沢文庫・神奈川県立歴史博物館・横浜市歴史博物館

開催日：平成２８年３月２７日（日）

２７年度の県外研修は「武家文化」をメインテーマに、金沢北条氏ゆかりの称名寺や金沢文庫、源氏ゆかりの地鎌倉に関する資料を収蔵する神奈川県立歴史博物館などを巡り、武家文化の発展について学びました。盛りだくさんの内容で、１つひとつをゆっくり見学することができませんでしたが、協力員同士親睦を深めつつ、充実した一日となりました。

齋藤夏希さん

称名寺の浄土庭園は、奥州藤原氏の造営した毛越寺のそれを模したと言われているが、想像していたよりも小さく、禅宗の影響も感じられる鎌倉らしい庭園であった。征伐ののち遠い奥州で極楽浄土を再現したかのような庭園を見た時の、鎌倉人の心の内に湧き上がったであろう心情と情熱を余すところなく伝えていた。博物館では、海の無い山梨と海も山もある神奈川県の生活の違いを感じた。特に食にまつわる道具類、住居の様子なども興味深かった。

２ヶ所でガイドの方に説明を受けたことも大変勉強になった。主観を入れすぎないこと、時間が長くならない事にも気を使われているとの事で、観光名所ならではの心づかいを感じた。その点においては、遺跡ボランティアで２つの組の時間配分がかなり違った点においても、私も気をつけなければならないと感じた。お客様のタイムスケジュールや解説時間に心を配る事は一番重要であり、結果としてお客様の満足度にも影響することを身をもって感じたからである。日帰りの短い時間であったが、とても充実した研修となった。

丹澤恵美子さん

３月２７日に実施された横浜への県外研修。中世の武家文化はもちろん、先史から現代までの歴史や文化を学ぶことができ、とても有意義な一日となりました。一番印象に残っている見学地は大塚歳勝土遺跡。博物館の前に立ったときはどこに遺跡があるの？と思ったのですが…。屋上から連絡橋を渡るとそこに弥生時代がありました。水稲農耕技術などとともに大陸や朝鮮半島から伝わってきた新しいムラの形である環濠集落。その時代に集団同士の争いがあったことを物語っています。住居の数は 20 ～３０軒、100 人余りの人々が暮らしていたようですが、存続は数十年だったとのこと。他の土地に移住したのか、他のムラとの争いに負けてしまったのか…。最後になりましたが、研修を企画してくださった皆様にお礼を申し上げます。

▲称名寺山門。仁王像がお出迎え。

▲称名寺金堂前にて。ガイドの方に説明を聞きながら。

県立歴史博物館では自由見学。縄文の展示に見入ったり、鎌倉関連の貴重な資料に目を奪われたり…。▶

窪寺康一さん

今回の研修先で印象深かったのは、称名寺であった。称名寺といっても、北条實時にはじまる寺の山門・浄土庭園もさることながら、称名寺という名称である。車中で村石先生の「称名寺式土器」の標準遺跡でもある地名との説明を受けましたが、昼食後の横浜市歴史博物館での研修で、入り口に称名寺式土器の展示がありました。学芸員の方に「午前中に称名寺を見学したが、称名寺貝塚はどの辺りか」と尋ねると、寺の門前にある遺跡との説明を受けた。館内の展示の中に称名寺遺跡があり、そこには称名寺付近の地図と昭和３０年代、４０年代の遺跡発掘状況の写真展示がありました。年のせいであれこれと説明を受けても直ぐに忘れてしまう昨今、今回の研修の成果の１つとして、縄文後期前半の標準土器、称名寺式と称名寺について知ることができ、有意義な１日であった。

藤原尚美さん

『武家文化』をテーマとする協力会の研修旅行にはじめて参加させていただきました。

称名寺では浄土の世界を再現しようとした境内の此岸と中之島と彼岸を二つの橋で結ぶ、池を中心とした庭園に心が安らぎました。隣接する金沢文庫では北条実時の時代や神奈川の郷土資料、仏像などをみることができました。神奈川県立歴史博物館では、五つのテーマ展示のなかでも「都市鎌倉と中世びと」の展示の、伝源頼朝座像や鎌倉新仏教の諸宗派や円覚寺舎利殿の復元模型が印象的でした。ただ歴史的建造物である洋風建築の博物館外観をしっかり見てこられなかったのは残念でした。横浜市歴史博物館では時間の関係で館内の展示をゆっくり見られませんでしたが、屋外展示の弥生時代の大規模環濠集落跡や復元住居、方形周溝墓が整備され残されているのを見ることができました。大規模な港北ニュータウン建設のため山が崩され、その一部にあった遺跡を保存しているという話に驚きました。今回の研修で、個人では行く機会の無かった場所を訪れることができて感謝しています。

▲神奈川県立歴史博物館前にて全員で集合写真！！

▲昼食は中華街。親睦を深めました。

◀大塚歳勝土遺跡公園。環濠集落跡を見学。

力を合わせて頑張っています!!～日々の活動から～

考古博物館協力会は、様々な形で考古博物館の事業に協力し、活動をしています。「風土記の丘こどもまつり」や「県民の日」のイベントでは来館者が体験するものづくりのお手伝い、古代米や縄文スープの試食の準備など幅広く活躍しています。学校の体験学習では、職員とともに勾玉づくりや火おこし体験の指導に当たっています。また戦争体験の語り手やおはなし会の読み聞かせ、ものづくり教室の補助など、それぞれの知識や技能を活かした活動もしています。今後も、多くのみなさまに楽しんでいただける博物館づくりをめざし、活動の幅を広げていきたいと思います。

▲考古博物館では年間を通じて様々なイベントを開催。得意分野を活かして、協力員が活躍しています！！

学びの輪　～勉強会・研修会を開催しています!!～

考古博物館協力会では協力員を対象とした勉強会や研修を開催しています。企画展・特別展の勉強会では、実際に展示を見ながら、学芸員からレクチャーを受けます。また解説を聴くだけでなく、その場で質問ができたり、議論を交わしたりと主体的に学ぶことができるのもこの勉強会の魅力です。こうした勉強会を開催することにより協力員の考古学への興味関心がさらに深まり、学びの輪が広がっています。

また勾玉づくり研修やボランティアガイド研修も行っています。これらの研修を受けた協力員は勾玉づくりの体験補助やボランティアガイドとして活動することができます。勾玉づくり研修では、学芸員の指導を受けながら実際に勾玉を作っていきます。自分自身が実際に体験することにより、指導する際のポイントも分かってきます。ボランティアガイド研修は年３回に渡って行われます。１回目は展示のポイントや概要を学芸員から学ぶ座学、２回目は展示を見ながら解説の講義、３回目に解説の実習となります。今年度も多くの協力員が参加し、知識や技能を磨きました。来館したみなさまに有意義な時間を過ごしていただくため、協力員も日々研鑽を積んでいます。

ボランティアガイド、やっています!!

「見学しただけではわからないことが学べた。」
「ガイドさんのお話を聴いて、すごく興味を持った！！」
お客様に好評をいただいております、ボランティアガイド。このボランティアガイドも協力員の活動の１つです。土・日・祝日やイベント開催日を中心に、常設展の解説を行っています。ガイドスタッフはお客様に「より楽しく、よりわかりやすく」ガイドができるよう、研修を積み、熱心に学んでいます。またお客様のご希望や状況に合わせて工夫をしながらガイドをしています。そしてなによりも、ガイドスタッフ自身の「考古学って楽しい！！」という思いがお客様に伝わっているのではないかと思います。「へえ～、そうだったんだ！！」と目から鱗のお話も聞けるかもしれません。

考古博物館にお越しの際は、ぜひボランティアガイドスタッフにお声かけください。知識も経験も豊富なガイドスタッフが楽しい考古学の世界をご案内します。

彩りを添える
～思いをかたちに～

考古博物館で
お待ちしています。
楽しいイベントも
ありますよ！！

エントランスや受付に置かれたお花や小物たち。これらはみんな、協力員のみなさんの作品です。お花は原田みゆきさん。いつも季節に合わせたお花を生けてくださいます。時に可憐に、時に華やかにエントランスを彩っています。また受付前に置かれた干支の置物は山地千恵子さんの作品です。毎年作ってくださっています。今年は烏帽子をかぶり、羽織をきたおさるさん。愛らしい表情をしています。そして今年新たに受付のテーブルに加わった「いっちゃん」の土鈴。北村正仁さんの作品です。後ろの「へび」まで精巧に造られています。協力員のみなさんの「技」と「心」を感じます。協力員として、考古博物館を訪れる皆さまを思う気持ちがこんなところにもあふれています。

◇編集後記◇
新しいメンバーを加えてスタートした 27 年度。特別展、各種イベント、研修と活発な活動が展開されました。その一部分を紹介させていただきましたが、協力会や考古博物館の活動に興味を持っていただければ幸いです。今後もホームページ、フェイスブックなどで情報提供をしていこうと考えております。寄稿してくださった協力員の皆さま、ありがとうございました。今後とも考古博物館へのご協力をよろしくお願いいたします。（事務局）

印刷：株式会社 峡南堂印刷所